



日本聖公会
大阪教区教務局
〒545-0053
大阪市阿倍野区
松崎町2-1-8
TEL 06-6621-2179
FAX 06-6621-3097
発行責任者
教務局長 司祭 原田光雄

〈HP〉 <http://www.nskk.org/osaka/index.htm> 〈e-mail〉 office.osaka@nsk.org

第421号 2011年10月23日発行

「あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子になさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。」(マタイ28:19、20a)

教会は何のためにあるのか、と問われるならば、答えは極めて簡単、それは伝道の為にあるのである。伝道とは読んで字のごとく道を伝えることである。そして道とは、真理、



司祭

折が良くても

悪くても

ウィリアムス 竹内 信義

道理、正しい筋道ということであり、それはイエス・キリストによって人類に与えられた、大切な真理、神の心の打ち明け、神の啓示であって、それを宣べ伝えるために教会は存在するのである。その為に見ると言っても過言ではない。

他のことがどんなに立派に行われていても、この一点が欠けるならば、それはキリストの教会ではない。教会には

礼拝、教育、奉仕などいろいろの活動もあるが、それららみな伝道というこの一点を指している。その様に伝道は教会の最も大切な機能、教会の生命そのものなのである。

ところが、近年この伝道というところが、甚だ困難なことになっていく。10年前と比べて信徒が増えていく教会はめずらしいのである。

教区で委員会などを設けて対策を検討し、様々な企画を

するのでも大事だが、その前になすべき大切なことがある。

それは一人一人の信徒の心の持ち方、意識の革新である。多くの人が、伝道とは聖職、

牧師らのすること、自分も力もないし、訓練も受けていないのでプロに任せ、自分は、誠実な教会生活、礼拝生活を守っているだけでよいと考えている。

しかし、その様な受け身の姿勢は間違っていることが、

新約聖書を見ると明らかである。福音書や使徒言行録などを見ると、洗礼を受けた人、キリストを信じた人は、直ぐに伝道の働きを始めている。皆が熱心に家族や知人にキリストのこと、主が、唯一無二の世界の救い主であることを宣べ伝えていく。そうすることによって信徒は増え、教会が世界各地に急速に広がっていった様子がよく分かる。これが歴史の伝える教会の本来の姿である。

伝道ということはこのように、信徒の主要な任務である。私たちの経験からしても、本当に信仰の喜びを経験した者は、それを自分だけの密かな喜びとすることが出来ないものである。なんとしてもそれを周囲の親しい人、愛する人に分かち合いたいと思うのである。

もし、そう思わないとしたら、その人の信仰が、本当のものでないか、或いはその人の愛が本物でないか、そのいずれかであろう。

伝道の働きはこうした自覚さえあれば誰にも出来ることである。先日も見知らぬ中年

の婦人がきて、色刷りの綺麗な新聞を手渡された。見れば天理教の新聞であった。他にも他の宗教だが個別訪問している人々もよく見かける。私たちが過去5年間で一体何人の友人に教会に来るよう勧めたか自ら問うてみれば明らかではないだろうか。

戦前は、今より伝道に力を入れていたと思う。賀川豊彦の下に全国的に展開された「神の国運動」があったし、戦後はビリー・グラハムなど、アメリカ人伝道者が活動を繰り返して広げたこともあった。

他方今日は、多くの高齢者が死後の問題に関心を寄せ、その他、唯物論的、科学的な思想の行き詰まりから、宗教に心を寄せる人も増えてきている。人々は思想的混乱の中にあつて、霊的な生きたメッセージを期待しているのではないだろうか。「御言葉を宣べ伝えなさい。折が良くても悪くても励みなさい。」(テモテII 4:2)とあるように、この世を去る前、一人でも多くに道を伝えたいものである。(たけうち のぶよし・東豊 中聖ミカエル教会牧師)

小池俊男師父(大阪教区第3代主教) 102歳の長寿を全うし 主に召される



大阪教区第3代主教、マルコ小池俊男師父は7月28日(木)午前11時47分、102歳の生涯を終えられた。師父は晩年、博愛社ケアハウス「はくあい」で、健やかで静かな日々を送っておられたが、突然に体調を崩され、静かに主の御許に召された。

同29日午後6時から、葬送の式は翌30日午前10時30分から、大阪教区主教座聖堂(川口基督教会)で行われ、多くの会衆がこの世の旅路を終えられた師父を惜別の思いをもってお見送りました。

「小池主教はよく、『聖公会の良さは互いの違いを大事にし、認めあい、尊重していることで、そこに豊かさがある』と言われていた。また『神の御顔はキリストのお姿であり、主の御顔を仰ぎ見ることが私たちにとって

大切だ』と語り、神学校を卒業後は毎日、聖書の日課をギリシヤ語で読まれていた。聖職が少なくなるなど、教会の将来を心配している私に主教は『戦争中でも聖職が出てきたではないか。心配ばかりして神と共にある喜びを見失ってはいけない』

追悼 小池俊男主教を主のみもとに送る
「い」と言われた」などと話された。葬送の式には遺影も献花もなく、柩の前の一对の白い花のみの簡素の中で行われ、「主のみ顔を仰ぎ望まれ」続けられた生前の小池主教の信仰を改めて追憶するものだった。

小池俊男主教の主な略歴は以下のとおり。
1908年12月4日、小池耕

追 悼

小池俊男主教を主のみもとに送る

主教 サムエル 大西 修

ちょうど3年前、私の主教就任直前の9月16日、「ケアハウスはくあい」に入っておられた小池 主教のところへご挨拶に伺った。12月には100歳をお迎えになる年であった。お顔の色つやもよく、いつも真っ白なワイシャツを着て、とてもダンディーなお姿でおられたことを思い出す。「大阪教区は良い教区です。何も問題はありません。心配いりません。しっかり働いてください」このような励ましの言

葉をかけてくださったことを、今もはっきり覚えている。
大阪教区第3代主教として1963年から1975年までの12年間、聖書のみ言葉に拠って立つ教区の形成に尽力された。日々聖書を熟読し研究され、その上に立って信徒の聖書の学びを大切にされ、テキストも発行された。また神学生が多く生まれた時でもあったので、教区に神学生後援会を立ち上げ、会員による祈りと会費をもって、かれら

造牧師の長男として島根県で出生。
1933年3月、立教大学・聖公会神学院卒業。
1950年6月、オックスフォード、ウイクリフ神学校で1年修学。
1933年〜63年、広島降臨教会、西宮聖ペテロ教会、芦屋聖マルコ教会で勤務。
1963年〜75年、大阪教区主教。
の生活をサポートすることとした。その働きは今日も大切な働きとして続けられている。連合男子会も小池主教の時に生まれた。他教区には例を見ない若々しい壮年男子の集まりであったが、今日的な課題は若返りと後継者の養成である。
7月28日朝、十三市民病院の臨終の病床で塗油が、ご親族の皆さんの見守る中で行われた。102年の生涯をキリストのしもべとして生まれ、キリストにある信仰の喜びと素晴らしさを教えてくださった小池主教に、心から感謝したい。主のみもとにおける安らかな憩いを祈りつつ。

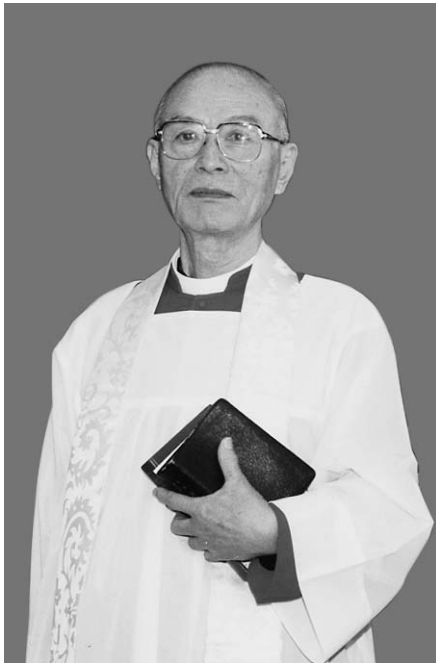
追悼

マルコ 小池俊男師父

島根の地から牧師の道へ

司祭 ヨハネ 山根 貞夫

小池先生は島根県松江で小池耕造先生(当時は小学校長)の長男として出生された。明治初期CMS伝道協会は盛んに山陰地方で宣教活動を始めていた頃、耕造先生はバツクストン宣教師ほか幾多の教師から学ぶところ多く、遂に教職を辞し、伝道牧会の道を選ばれた。その結果、俊男先生も父親に倣い牧師への道を歩むことになった。と言っても今のような神学生後援会があつて献身者の応援をするようなシステムは無い時代である。先生は遙々島根県浜田



追悼

父、俊男のこと
「孤高の人」から「傍らにいる人」へと

ヨハネ 小池 宣郎

父、俊男は伝道者としての人生の大半を、教区主教に任

るためであった。

伝道熱心なマン先生は自宅では聖書研究会を主宰(西宮聖ペテロ教会の前身)しておられた。俊男先生はここに教日滞在中、マン先生からいろいろと教えを受け神学校へ行く準備と、それとなくマン先生は俊男先生の観察もしておられた。これにパスして初めてCMSが支える神学生として採用され必要な経費などが

支給されることになる。小池先生は勿論パスされ、初めての

の東京となり立教大学予科に進み同時に聖公会神学院(立教大学の向かい)での修学も始められた。その頃は立教大学の卒業と同時に聖公会神学院も卒業することができた。先生は二校の卒業証書を手郷里に帰られたことでしょう。先生は聖公会神学院からは優等神学士の称号を受けておら

れた。神戸教区の広島を経て西宮

聖ペテロ教会に赴任、数年後には芦屋聖マルコ教会の牧師となられ、以来24年間の長きにわたって伝道牧会に全力投入をされた。1963年4月28日主教按手を受け、1975年4月30日まで大阪教区第三代主教として忠実にその任を果たされた。(やまね さだお 退職司祭)

ぜられるまで、芦屋で過ごした。24年の歳月であった。まだ若い頃は、多分信徒の方々には「おっかない」人で、下手なことを言うことはできない、という印象を与えていたのではなからうか。父の父、つまり私の祖父が牧師になる前に小学校教師をしていた頃、長男として出生し、下に大勢の弟妹を抱えていた13歳の時に、最愛の母親を亡くすという人生の悲しみ

を味わっている。そして幼い弟妹の面倒を見るため、やり場のない悲しみを抑えて、生来蒲柳の体質であった体に鞭打って頑張ったようである。更に病に罹り、一年の休学を余儀なくされた。この体験が、弱い自分に意志力で打ち克つて生きる、という姿勢を培ったように思う。自然と、周りには「おっかない人」という印象を与えるようになった。戦後、平和な時代に入り、昭和20年代の初めに1年間、父は英国オックスフォードに留学した。その帰路、船が地中海を進む中で、祈りの中で示されたのは、自分は悩む者

悲しむ者の友とならなければならぬ、ということだった。と信徒宛の書簡の中で述べている。芦屋での教会生活の後半、そして主教時代に入って、「孤高の人」ではなく、「傍らにいる人」へと変身したのではなからうか。否、本来持っていた「優しさ」を素直に表に出す人になったと思う。人生の後半は、人との暖かい交わりの中で、幸いを味わったのである。(こいけ のぶろう・芦屋聖マルコ教会信徒) (次頁4段目にも追悼文が続きます)

盛大に教区礼拝

昨年を上回る 560余人が参加 頼主教を迎え、多くの子どもが集う



大阪教区の今年の教区礼拝（式典長・木村幸夫司祭）は、プール学院勝山キャンパスの清心館に台湾聖公会の頼榮信主教を迎え、また「信仰の継承、子どもと共に」を覚えて多くの子ども達が集い、昨年を上回る562人が参加して盛大な礼拝を主にお献げした。

この日は秋晴れの好天にも恵まれて多くの兄弟姉妹が早々と受付に並び、午前10時30分、入堂の長いプロセッシンから礼拝が始まった。各教会から集った約50人の聖歌隊員が、それぞれの教会の式服をまとってパイプオルガンの後ろの一面に。またオルガンに加え、ピアノとトランペット、「教区グランド・アンサンブル」と「子どもアンサンブル」も参加し、礼拝にさらに「力」が加えられた。頼主教の力強い説教（説教の内容は別項）と信施のあと、子どもたちが大きな十字架を担いで現れ、壇上の左側にその十字架を置き、その周りに集った子どもたちは約50人を数えた。

陪餐中の聖歌隊による賛美はアヴェ・ヴェルム・コルプスなどに続き、キッズ聖歌隊が

「みんなで輝く日がある」を合唱。祝祷のあと、台湾聖公会と大阪教区姉妹関係継続調印式が執り行われ、頼主教と大西主教が書類にサインの後、固い握手を交わした。

昼食のあとのプログラムは講演会やキッズ広場など、盛り沢山の催しを用意された。安斎育郎さん（立命館大学名誉教授）の「考えよう、平和と環境」と題する清心館での講演会では、原発事故、大震災、核廃絶、憲法九条について話され、多くの聴衆が参加した。またキッズ広場では、子ども達のための催しに、親子が共に楽しみ、歓声がキャンパスに響いていた。（編集部）



追悼

温かく見守る姿勢 想い出つきぬ小池師父

ヨハネ 佐治 孝典

六十六年にわたる私の信仰生活にとって何よりも忘れがたい師は、日本基督教団の重鎮であり、すぐれた伝道者であつた今村好太郎先生であり、もう一人は日本聖公会の中で、聖公会のエッセンスと、プロテスタントのエッセンスを合わせもつた幅の広い謙虚な神学者小池俊男主教でした。

私のような意固地な性格をもつた者が、結婚して十年にしてかなり自然に日本基督教団から、日本聖公会に移り今日に至っているのは、主の御導きとはいえ、お二人のすぐれた信仰の指導者との出会いがあつたからでした。

殊に小池主教は、芦屋聖マルコ教会の時代から、私の信仰の歩みを黙って見ていらつしゃつたと思います。そしてかなりプロテスタント的な傾向が強く、それをあえて変えようとしぬ私の歩みを、「君はそれでいいんだ」と温かく見守ってくださいだったので

す。そして生粋の聖公会の信徒であつた妻とも、信仰上のもめ事もなく過ごすことができました。

更に印象に深いのは、主教が礼拝説教で、日常の信徒生活や、身近な社会問題をよく例に引いて話され、大方の聖公会の観念的で抽象的な内容に終始しがちな説教とは異なつて、聞く者に強い生気を与えられたことでした。

また、先生は幾度か私に色紙に、私が教会の外で平和の問題とか反戦運動に関心をもち、参加していることを「義を叫ぶは真と愛に促され共に生くる明日を望めば」と書いて励まして下さいました。想い出はつきません。

（さじ たかつね・芦屋聖マルコ教会信徒）

教区礼拝

頼榮信主教の説教要旨

大阪教区創立88年目になるこの年、この教区礼拝で「共に主に在って喜ぶ聖徒になること」が出来ますようにと願います。

私たちはキリストの中で生き、常に葡萄の枝のように葡萄の木と繋がっている。イエスは諭えの中で、オリブ、ザクロ、イチジク、ナツメなどの果樹でなく、なぜ葡萄の木を挙げて私たちに励ましておられるのか。私の理解では、葡萄の木は日差しを求め、太陽に向かって伸び続ける。これは私たちが霊的に成長するように励まし、いつも聖書を読んで真の光に向かうべきことを意味している。

葡萄の木は干ばつや、乾期などの悪環境の下でも、根は深く伸び広がり、水がある地



層を探し当てに属する民が必ず根を下ろ

して、信仰を求めめるチャレンジを続けるべきことを示している。私たちが誠実さをもって主を礼拝する時、主と正しい親密な関係を結び、不思議な方法で神様からの祝福が与えられ、まるで葡萄のように多くの甘い果実を結ぶことができるようになり、父なる神の栄光が与えられる。

私たちはキリストの何を見習い、手本とすべきだろうか。キリストは本来、神の形でありながら、ご自分が神の身分であることに固執せず、かえって謙虚に僕（しもべ）の身分となり、人となられた。従って、キリストが指し示しておられるご意思は、生命の価値観と、そこから出てくる行動力なのだ。

私たちは、まずキリストを見習い、へりくだって神様に謙虚に従わなければならない。私たちが人々に伝道、福音を伝えることに躊躇してしまうことがあるとすれば、その主な原因は大部分、自分が真の

道への認識をあまり深く持つていないからであり、神様の権力、能力に対する信頼が足らず、そのために臆病、恐れに取りつかれ、躊躇し、福音を伝えるチャンスを見失う。

我々がキリストに従う時、「言行一致」でなければならぬ。言葉と行いは心からで、イエスは私たちに「はっきりと言われた。『あなたがたは』然り、然り』『否、否』と言いなさい。それ以上のことは悪い者から出るものである」と。(マタイ5:37)

イエスはまた聖書の中で2つの「言行不一致」の息子の例えを語っておられ、それを通じて私たちに「言行一致」であるようにと教えておられる。それは行動に示すということであり、伝道すること、福音を伝えること、主に仕え、従い、他の人を思いやる聖徒になるようにということである。

大阪教区と台湾聖公会の聖職者、信徒がお互いに励ましあい、共に努力し、主の憐れみと恵みにより罪を赦され、私たちに新しい心と魂が与えられますように。そして、は

つきりとキリストの心と繋がりを、新たな真の命をもって、義の証し人となり、喜びに満ちあふれた聖徒になれること

を期待している。

主の御名を褒め称え、栄光がみ名にありますように。

アーメン

礼拝会
区礼拝
講演

安斎育郎氏が講師

「考えよう平和と環境」
憲法9条、核廃絶、大震災、原発事故をめぐって

司祭 ペテロ 齊藤 壹

今年の教区礼拝の午後のプログラムは、安斎育郎先生(立

命館大学国際平和ミュージアム名誉館長)を講師に迎え、表題の講演会を開催した。午前の礼拝が長引き、予定を30分遅らせての開催となったが、119人の参加者があった。

講師は東京大学工学部原子力工学科の第1期生で放射線防護学の第一人者。しかし科学者の社会的責任を感じて1960年代後半より一貫して原発政策批判の側に身を置いて来られた方で、平和学々の専門家でもあり、用意して下さったレジュメに従い次の4項目に分けて話して下さい

た。①戦争がなければ平和でしようか?②憲法9条で日本の平和は大丈夫?③核兵器はなぜなくすべきなのか?④原発事故を防げず、申し訳な

い! それらの中で、6年間のイラク戦争での犠牲者が15万人。同年月での日本での自殺者は20万人。日本は社会的暴力に満ち溢れている。核を保持する国連常任理事国の主導を越えて、平和共生外交基本法を!福島の状態は3日に2枚のレントゲンを撮っている状況である。表層土を3センチ削ることが一番の得策。核は廃絶以外に道はない。「隠すな、ウソつくな、故意に過小評価するな、事実を見据えよ」、等々、脳裏に刻まれる話をして下さい。立て板に水のごとき流暢さ、時に手品も交え、ユーモアセンスで聴衆の心を掴み、90分余りがあっという間の貴重な講演であった。

(さいとう はじめ・宣教部長)

ジョージ 林 正樹 執事が誕生

聖職が増し加えられ、 大阪教区に感謝と喜びが

ジョージ 林 正樹 聖職候補生の執事按手が9月3日（聖霊降臨後第11主日後土曜日）午前10時30分から大阪教区主教座聖堂（川口基督教会）で行われ、大阪教区にまた一人、

新しく聖職が増し加えられたの執事按手が9月3日（聖霊降臨後第11主日後土曜日）午前10時30分から大阪教区主教座聖堂（川口基督教会）で行われ、大阪教区にまた一人、

当日は、紀伊半島に甚大な洪水災害を与えた台風12号が、四国から中国地方に北上しようとしているとき、大阪では時々、激しい雨にさらされたが、約150人が集った。



按手式（式典長・内田望司祭）はプロセーションに始まり、大西修主教が司式、聖書の朗読は、旧約聖書を大阪聖パウロ教会の橋井治さん、使徒書を西宮聖ペテロ教会の森英雄

さん、福音書を木村幸夫司祭が務めた。そのあと松岡度一司祭が説教。同司祭は「執事は聖公会の三聖職位の一つとして確守しており、執事は人々に仕える者であるが、聖職はみな人々に仕える者でなければならぬ」と諄々と論じられた。

ニケヤ信経のあと竹内信義司祭と大阪聖パウロ教会信徒の西臺宏氏が推薦の辞を述べ、試問、会衆の祈りのあと、大西主教が志願者・林聖職候補生の頭に手を置いて執事の聖

別を行われ、ここに新しく一人の執事が主の公会に増し加えられた。奏楽は大阪聖パウロ教会の坂本真紀さんが務められた。

喜びは礼拝後、会館3階での祝会へと移り、山野上素充司祭と、林執事が勤務する大阪聖パウロ教会の信徒が司会。大西主教、大学院時代の恩師 神田健次関西学院大学神学部教授を始め、ミッシェン・スクリルや大阪YMCAをはじめキリスト教非営利組織に関係する多くの人々が祝辞やお

祝いの品々を林執事に贈って、新執事の門出をお祝いした。
(編集部)



公 示

2011年9月3日
日本聖公会大阪教区主教
主教 サムエル 大西 修

以下の人事を発令します。

執事 ジョージ 林 正樹
大阪聖パウロ教会牧師補に任命する。

救主降生2011年9月16日

以下の人事を発令します。

司祭 モーセ 任 大彬
願いによって復職を許可し、主教座聖堂付とする。

救主降生2011年9月25日

以下の人事を発令します。

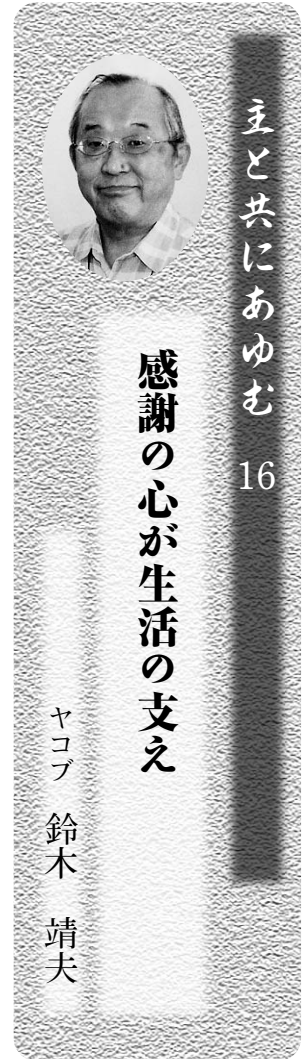
司祭 フランシス チョウ ジョンピル
健康上の理由により、恵我之荘聖マタイ教会牧師の任務を解き、休養を命じる。

主教 サムエル 大西 修
恵我之荘聖マタイ教会管理牧師に任命する。

救主降生2011年10月1日

以下の人事を発令します。

ヤコブ 義平 雅夫
日本聖公会聖職候補生に認可する。



主と共にあゆむ 16

感謝の心が生活の支え

ヤコブ 鈴木 靖夫

社会人生活に入った3年目の1970年、大阪河内松原市に住む私は、京都から母を呼び寄せ勤務先の社宅に住むことになった。どこの教会に

行こうかと考えた末、近くに ある恵我之荘聖マタイ教会を訪ね、当時の牧師山本早太郎の熱心な誘いを受け通うようになった。当時は仕事の関

係でイースター、クリスマスにし礼拝を守ることができなかったが、妻との結婚、3人の子どもにもめぐまれ、幸せなクリスマスチャン生活を持つ

ことが出来たことに感謝をする。40年にわたるサラリーマン生活を終え、今はほぼ毎週の主日礼拝を守ることができ、また、教区の様々な行事に参加できることに喜びを感じている。

3週間の入院で無事退院することができ、本当に感謝である。今年のマタイ教会の聖句である「絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。」(テサロニケ5章16節)とあるように、私の生活の支えは「感謝」の心である。(すずき やすお・恵我之荘 聖マタイ教会)



教区礼拝 子どもと共に

9月25日、教区礼拝がプール学院「清心館」で行われ、500人以上の方々と共に主を賛美し、台湾聖公会の頼榮信主教様の力強い説教に励まされ、聖餐によって養われ、豊かな恵みにあずかることができました。

書朗読、奉献、奏楽、聖歌隊などの役割を担い、礼拝を一段盛り上げてくれたことです。詩編147編1節の「何と麗しいことか、わたしたちの神をほめたたえることは。何とふさわしいことか、わたしたちの神を賛美することは」を彷彿とさせる礼拝でした。

食堂での昼食後、キッズ広場も開かれました。また講演会は安斎育郎先生のお話「考

えよう 平和と環境」憲法9条、核廃絶、東日本大震災と原発事故をめぐってでした。このような身近で重要な問題を、わたしたちは、教会は、いかに受けとめ、いかに取り組んでいくのかが問われました。直接、目前に見えない泣く人と共に泣くこと、思いを共有することの難しさを実感している毎日ですが、そんな中で、東日本大震災救援募金目標額5000万円の達成の可

大阪教区「東日本大震災第1次救援募金」

(募集期間：2012年3月31日まで)

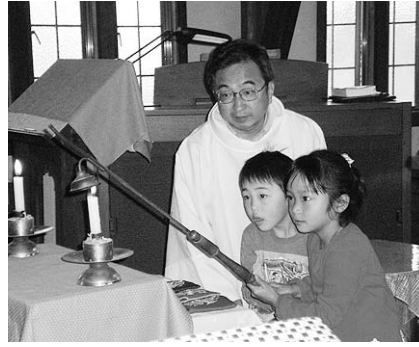
19,856,969円(9月30日現在)

(目標：50,000,000円)

*各教会で祈りとともに献げられた
大阪教区の献金総額は上記の通りです。

(主教サムエル大西修)

若狭の古港小浜における福音の萌芽は当地出身で立教在学中に受洗、後に東京教区で司牧された杉浦悦太郎長老に始まります。師は帰郷の際、親族・在郷の有志を募り聖書研究会を主宰。此の地における福音伝播の使命を感じ、ページ、マキム両師に若狭伝道を議するにいたります。そして、1887年3月、川口を出発したページ、マキム、浜田佐太郎三師、「寒威未だ凛冽積雪皚皚山野を蔽ふ。衣帽悉く雪を以て湿ふ、辛うじて此の地に達す」と記される旅



京都教区との協働を目指して 聖職と教会紹介 ⑦

司祭 ヨハネ 古賀 久幸

程の後、待ち焦がれていたメンバー9人に洗礼を授け、ここに教会の礎が据えられました。登録文化財に指定されている礼拝堂は其の10年後に献

堂され「水辺の教会」として親しまれています。

当教会の地域におけるミッシヨンの特徴は幼児に対する教育・保育の働きです。創立

百年を迎えようとしている聖ルカ幼稚園、地域の子育て家庭を支えてきた聖ルカ乳児保育園の実績が認められ、小浜市における公立保育園統廃合

京都府北部教会のご案内

司祭 ヨシユア 柳原 義之

京都府北部には、東舞鶴聖パウロ、宮津聖アンデレ、加悦聖三一の3教会と四辻伝道所があり、東舞鶴から加悦まで約55km、平均70分ぐらいの距離です。3教会合わせても10人にも満たない現在信徒がおり、主に東舞鶴で主日礼拝をし、基本的に第3日曜を加悦(午前)、宮津(午後)で

の聖餐式の奉仕に出かけ、その日舞鶴では信徒によるみ言葉の礼拝を続けています。私は上記の教会の奉仕をさせていただいて13年目になります。東舞鶴、加悦にはそれぞれ幼稚園があり、3教会、1伝道所、2幼稚園の牧師と園長を兼務しています。よく「柳原主教様の…」と聞か

れませんが、全くつながりはなく、旧姓は「大藪」です。今から25年以上も前になります

に伴う民営化の口火を切る定員140人の「今富そらのと」保育園を昨年開設するにいたりました。現在、小浜市における未就学児の約30%を3園で預っており地域における次世代育成の責任を教会員、教職員一同ひしひしと感じております。

ご存知のとおり若狭は原発銀座と呼ばれ最大時関西の60%の電力を供給してきました。小浜市は教会信徒で当時市長職にあった故鳥居氏が原発建設に拒否。このため立地市で

はありませんが東西40キロ以内に「もんじゅ」を含め14基の原子炉が存在し、直近の大飯原発からは10キロ圏内に市内がすっぽりと入ります。今夏、福島県の小名浜、郡山、会津若松の三教会三幼稚園を訪問し除染作業をおして原子力災害の実情に肌で触れました。この地にある教会として新たな問題に直面していることをあらためて実感しております。

(こが ひさゆき・小浜聖ルカ教会)



宮津聖アンデレ教会



加悦聖三一教会

が、宗像神学生(当時)との交換で高槻聖マリヤ教会に勤務し、奥康功司祭ご家族をは(16頁1段目につづく)

また私たちに新しい喜びが 義平神学生を囲む会に出席して

ヨハネ 太田 幸彦

この会は8月21日(日)、
守口復活教会で開かれました。
神学校に入学して勉学に励ま
れている神学生を、教区の多
くの人々が応援し、励まそう
という思いでいることを伝え
たいとの趣旨で毎年催されて
います。

ヤコブ義平雅夫神学生は現
在47歳と、働き盛りであるこ
と、更に関西学院大学神学部
をご卒業後、日本基督教団正



教師に認可され病院のチャプ
レンなどの経験を積まれてい
たというバリバリの牧師さん
とのことで、期待を持って参
集しました。私個人としては
面識もあり、更にこの夏の教
会実習で聖ルシヤ教会でも主
日礼拝での教話をお聞きして
いましたので、もう今にも現
役聖職者としてお働き頂ける
との感じを受けておりました。
さて当日15時に開始され、
102人の出席者がありました。
司会は奥村聖職候補生、
出身教会である守口復活教会
信徒の鈴木栄一兄による人物
紹介がありました。ご紹介は
大変見事で、義平さんのお人
柄が全て聴く人に伝わるもの
でした。引き続きウイリア
ムス神学館での生活と勉強の
様子の紹介、ご家族の紹介、
奥様の香津子夫人は大変魅力
的な方で牧師夫人としてまさ
に適任とお見受けしました。
続いて大西主教の励ましと言

葉と、千松・古澤両聖職候補
生によるインタビュウがあり
ました。二人からはかなり突
っ込んで答えにくい質問もさ
れましたが、見事に、あると
きは真面目に、あるときはユ
ーモアたっぷりに答えられ勝
負は義平さんにあつたよう
でした。

黙想会に出席し

神の語りかけを学ぶ

聖職候補生 クリストファー 奥村 貴充

このたび、大阪教区・京都
教区共催の「教会奉仕者およ
び聖職への道セミナー」(8
月15日～17日、宝塚黙想の家)



こうして和気藹々1時間半
の会が閉じられました。今後、
義平神学生が研鑽され卒業、
執事・司祭試験に最小時間で
通過され、教区の大きな戦力
として活躍されることを心か
ら願っています。
(おおた ゆきひこ・聖ルシ
ヤ教会信徒)

に参加させていただきました。
この黙想会で自らの課題とし
て、神さまの声を聞くという
ことを課題に挙げました。

聖書朗読について考えるセ
ッションの時に「朗読はテク
ニックではなく、メッセージ
を伝えることに意味がある」
と、指導者の石塚秀司司祭(奈
良基督教会)が言われました。
今まで朗読というと、とかく
意識的に大きな声を出したり
聞きやすい発音で語ったりす
ることに気を遣ってきたよう
な感じがします。確かにそう
したことも求められるかと思

いますが、中心となるのはど
のように神さまが語りかけて
いるか、ということに黙想の
内に聞いていくことが求めら
れていると思われました。そし
て得られたメッセージを踏ま
えて、朗読の際にそれを伝え
るように読むことが必要だと
思いました。

現在、日曜学校や教会の礼
拝で勧話をする機会が与えら
れていますが、その時、その
場で朗読される聖書の中で、
神さまが何を語りかけようと
されているのかを把握し、そ
れを伝えていく使命を担って
いることを、これからの働き
の中で気をつけていきたいと
思います。

そして上記の聖書朗読と併
せて学んだことは、詩編の作
者のようにどのような状況で
も神さまに祈ること、そして
自らの呼吸を整え神経を祈り
に集中させるということです。
黙想会での各セッションでこ
指導いただいたことを総合的
に踏まえ、これからの奉仕に
向けての養いしたいと思います。
ます。
(おくむら たかみつ・聖贖
主教会勤務)

大阪教区連合男子会 泊修養会

「もうやるしかないでしょ！」

— 信徒の働きと教会間の協働について —

2011年7月17日～18日 於：六甲保養所

ダビデ 宇野 豊



初夏の緑が鮮やかな六甲の山を背に、2年ぶりに一泊修養会が行われました。参加者は約50人。大西主教、宇野主教をはじめ司祭・聖職候補生を含め9人の教役者が参加され、例年にならない多さに、今回のテーマに対する関心の高さが伺えました。

初日、開会祈祷後、大西主教による「信徒の働き」についての基調講演が行われ、まず大阪教区の現況について、教役者の減少、信徒の高齢化、次世代の担い手（青年層）不足、財政など深刻な問題がある反面、他教区に比べ、交通便が良く、教区内を日帰りで移動できる唯一の教区であり、宣教活動に大変恵まれていることを忘れてはならないと話されました。

「信徒の働き」については、主に4つあり、①教会問答を身につける②聖書の学び③礼拝への出席④日ごとの祈りの励行。そして、教会は、信徒と教役者によって成り立っている信仰共同体であり、お互いを尊重し合い、理解し合うことが大切であるとのこと。2日目は、7時より聖餐式を行い、東日本大震災の為に祈りと献金を献げました。朝食後、岩城司祭による「教会

間協働」について基調講演が行われ、「教区の今後を考える小委員会」の報告書などの資料をもとに教区・教会が抱える多くの問題、今後の教会の働きをどのようにしていくのか熱心に語って下さいました（詳細は男子会会報掲載）。

総括では、大西主教より開口「もうやるしかないでしょう！」「議論は尽くされ実行あるのみ！」と強い口調。気

の引き締まる思いでした。私は初参加でしたが、食事時や懇親会において信徒と教役者がゆっくりと気さくに話ができて交流がもて有意義な時を過ごすことができました。感謝です。

憐れみ深い父なる神の御恵みと導きが大阪教区の上に豊かにありますように。

（うの ゆたか・聖贖主教会 信徒）

第124回祈りと証しの会

竹内司祭が語る

ペテロ 鈴木 憲二

第124回祈りと証しの会は9月29日（木）午後7時から大阪聖パウロ教会にて開かれた。山野上素充司祭より証し人が紹介され、東豊中聖ミ

カエル教会牧師である竹内信義司祭が次のように話された。父親が牧師をしていたクリスチャンホームに育てられ、青春時代は立教女学院、聖マリアレット教会で過ごした。周囲の期待をよそに電気通信関係の会社就職し、2年後東京から大阪への転勤となり、父親の配慮で当時の石橋聖トマス教会の山本登司祭から住む場所を紹介された。やっと

自由の身になれるかと思った矢先であったが、そこでの繋がりが現在に至ったのである。山本司祭は必ずしも牧師の道を示されなかったが、3年間の大阪での生活の後に自分がある場所がそのままいいのかと思うようになった。今から聖職の道に進むのは遅いかと悩んだ。「あなたがたが私を選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだ。」（ヨハネによる福音書15・16）の言葉によって聖職の道を志した。私たちは自分で人生を選ぶが、いつも正しい選択をしている訳ではない。とんでもない大きな罪、取り返しのつかないこともしてしまうことがある。絶望の淵に立っている人がいる。そんな中にある人も神様はそれから立ち上がる再起のチャンスを与えて、私たちに新しい道を備えてくださる。そのような神様に感謝したいとお話を結ばれた。

席上献金27,420円は教区神学生育成資金のために献げられた。（すずき けんじ・尼崎聖ステパノ教会信徒）



青少年キャンプ活動報告

ノア 京谷 晃男

8月9日から11日までの三日間、泉南市のわいわい村で大阪教区青少年キャンプを行いました。子ども14人、青年スタッフ9人、シニアスタッフ13人、教役者9人の計45人

の参加となりました。今年のキャンプのテーマは「語りかけに心をひらこう」でした。私は去年初めて大阪教区キャンプに参加しましたが、自分がリーダーをしていた小学校高学年の男子グループに一杯で、他のグループの子どもたちと関わる機会が少なかったこと、また、普段から教

会の良いところの一つは、赤ちゃんからお年寄りまで様々な年代が集まれる点だと思っていたことから、年齢性別関係なく一緒に楽しめるようなキャンプになってほしいと思い、このテーマに決まりました。

私自身まだキャンプに参加するのが2度目でわからないことが多かったり、いくつかの教会に直接行って宣伝しなければならぬほどスタッフが集まらなかつたりと、準備の段階から大変なことはたくさんありました。しかし、わ



も同士が自然観察やクラフトなどのプログラムに参加するところや、自由時間に子どもたちとシニアスタッフが一緒に遊ぶところなど、目的としていた世代間の交流が達成されているのではないかと思われる場面を何度も見ることができました。私自身もこのキャンプを通してたくさんの人と関わることができ、優しくしていただきました。ありがとうございました。

(きょうたに あきお・荻屋 聖マルコ教会信徒)



青年井戸端会議に参加して

マタイ 眞子 義人

8月29日〜30日、京都教区の教区センターにて行われた「青年井戸端会議」に参加した。これは、昨年開かれたプレ宣教協議会の青少年・子ども分科会で出された意見を受けて開催され、全国から44人が集まった。

1日目は、日本聖公会管区の青年活動紹介と会議の趣意説明、3人の青年による座談

会とそれを受けての分かち合い、東日本大震災のボランティア報告があった。2日目は、北海道教区の青年活動報告、分かち合いの報告・全体討議。26歳未満の青年が集まり、全国的な若い青年の交流をするための新しいグループが誕生した(正式に活動が始まり次第紹介する予定)。

今回の会議では座談会での発言には共感するところがあ



つたり、他教区の活動の話を聞いて刺激を受けたりと、1泊2日では語り尽せず、聞き足りない思いがあった。また、会議を通して、教区・管区で行われる行事に関する情報発信に課題があるといった発言が目立つ一方、主体的に参加する青年が少なくといった問題点もあるように感じた。新しい活動が始まり、その旗揚げに立ち会い感激を覚える一方で、不安も大きい。

(まなこ よしひと・聖贖 主教会信徒)

原爆の怖さ

原発事故に思いが

クララ 貝 実紀

8月5日に広島で行われた「平和礼拝」に参加しました。学校ではよく平和学習の時間があった、原爆で犠牲になった広島と長崎の話の聞いていま

したが、実際に広島には行ったことがなかったので、ぜひ「原爆資料館」や「原爆ドーム」の見学をしてみたいと思つて参加を決めました。

「原爆資料館」ではたくさん



の被爆者の写真や資料が展示されていて、とても怖いと思いました。今、福島の原発事故で多く

の姿が異様で、戦争後の周りの建物とあまりにも対照的だった。

生まれて初めて広島を訪れた。本で読んだり写真やテレビで見たりするのは違い、本物を目の当たりにして、戦争の残酷さをひしひしと肌で感じた。原爆ドームの骨組みだけ

異様な姿の原爆ドーム

人命の重さ学んだ2日間

アンナ 谷本七海

資料館では、壁に人間の影だけが残されていた。復元ではなく本物である。怖かった。悲しかった。遺髪も、皮膚がずりむけになった人が歩いてる姿の人形も...

らないでいたら、なぜ福島の人

礼拝音楽ワークショップ

アンサンブルをしてみよう

アグネス 高橋 明子

去る7月24日(日)14時から、川口基督教教会で子供達のワークショップを開催しました。

楽しいおやつを挿入での2時間のプログラムでしたが、

昨年

聞くと、子供達の熱意に逆に励まされたとか。

アンサンブル



（たかはし あきこ・礼拝・音楽委員長）

「み言葉の礼拝」を学ぶ 2

新しい式文で、礼拝
新鮮で違和感なく

マルコ 奥田 哲夫

暑さの厳しい8月28日午後、川口基督教会で行われた『み言葉の礼拝』を学ぶ2』に参加しているいろいろなことを学びました。

今回の学びでは、新たに完成した式文を用いて、実際に礼拝を行いました。通常、私たちの教会で主日に持たれている聖餐式や朝の祈りと違って、司祭の不在時に会衆が聖書のみ言葉を中心にささげる



ことが出来るよう配慮されているように感じました。

私が非常に印象深く感じたのは、朝の礼拝でも唱えられる使徒信経を司式者と会衆で交互に唱えたことでした。交互に唱えることによって、その意味をより深く考えることが出来たことでした。また、み言葉の分かち合いで、聖職の書かれた説教をよく読みこまれた上で朗読されたのも、新鮮な印象を受けました。聖アンデレ教会で、今まで何度かみ言葉の礼拝を持ったとき

世界の窓

○キリスト教学校再建を支援するイスラム教徒
インドの北西部、

カシミール地方にあるキリスト教系学校が昨年9月放火され全焼した。当時、カ

シミール地方では暴徒化したイスラム教徒がキリスト教徒を襲撃する事件が起こり、24人が死亡、100人以上が負傷した。その地方では400万人以上のイスラム教徒に対し、キリスト教徒は5,000人ほどしかない。放火された学校は北インド最大のプロテスタント教派である北インド教会が(CNI)運営していたが、約450人の生徒の全てがイスラム教徒であった。カシミール州政府はイスラム教徒の過ちを指摘し、イスラム教徒達は学校を再建するための話し合いを9月20日

に行い、校舎の再建だけではなく平和を再構築する必要性があると語り合っているという。

《September 21, 2011 : Anglican Communion News Service - Digest News》

○ケルト教会主教の集い

聖公会のケルト教会(スコットランド、アイルランドおよびウェールズ)の主教会が9月26日から29日にかけてスコットランドで開催される。ケルト教会の主教は、2年ごとに総会を行っている。今回の会議では、現代社会の文脈の中で求められるべき新しい霊性による、ケルト人の信仰とアイデンティティーに関して討議される。また、アングリカン・コミュニケーションに共通する幅広い問題についても議論される。

《September 26, 2011 :

Anglican Communion News Service-Digest News》

○ルター派牧師が聖公会の主席司祭に
カナダ聖公会のルパーツラ

ンド教区が福音ルーテル教会のポール・ジョンソン牧師を同教区およびウイニペグにある聖ヨハネ主教座聖堂の首席司祭(主教の低位)に任命した。カナダ聖公会と福音ルーテル教会は2001年から相互陪餐関係にあり、教派間でお互いの聖職者による司式は可能であったが、ルター派教会の牧師がカナダ聖公会の主席司祭に任命されるのは歴史の上初めて。なお、ジョンソン師の赴任は2012年1月16日付となっている。

《September 28, 2011 : Anglican Journal.com》
(翻訳: 司祭 ヤコブ 松平 功)

に感じた違和感もなく、逆に鮮烈な印象を受けました。こうした礼拝の形も、良いのではないかなあとの印象を受けました。

今後、教区でこの礼拝を学び、より深めることができればと思います。また、当日の出席者は52人を数え、32,990円の席上献金が献げられました。この献金は、東日本大震災のためにお届けしました。
(おくだ てつお・大阪聖アンデレ教会信徒)

教 区 の 動 き

常置委員会報告

9月2日(第11回定例)

7月21日開催の第10回常置委員会議事録を承認。

I. 主教報告

* 執事ジョージ林 正樹を大阪聖パウロ教会牧師補に任命する(9月3日付)。

* これに伴い、10月から執事アンデレ田宮紘の毎月第1主日の大阪聖パウロ教会勤務を解き、恵我之莊聖マタイ教会勤務とする。

* 聖職候補生志願者(神学生)ヤコブ義平雅夫を聖職候補生に認可する(10月1日付)。
* フランチェスコ成岡 宏晃(大阪聖アンデレ教会受聖餐者)を聖職候補生志願者とする(9月16日付)。

* 司祭モーゼ任大彬の復職願(8/31付)を受理し、主教座聖堂付とする(9月16日付)。

II. 協議事項

(1)「大阪教区・京都教区の協働及び合併に関する検討委員会」について

* 京都教区作成の原案に対する大阪教区としての原案を検討。

* 名称、目的、構成、任期、予算等について検討し、9月20日に予定されている次の京都教区との合同常置委員会懇談会で提案することとした。

9月16日(第12回定例)

6月21日開催の第9回常置委員会議事録を承認。

I. 主教報告

* 7月28日に逝去されたマルコ小池俊男主教のご遺族から教役者会へ20万円の寄付があった。また、教区にも100万円の寄付があり、「教役者研修資金」に組み入れることにした。

* 8月23日に小名浜聖テモ

テ・ボランティアセンターの開所式があった。

II. 教務局長報告

* 台風12号による和歌山県の水害に際して、奥村貴充、古澤秀利両聖職候補生、井上進次司祭、田中康兄(トマス)が新宮で被災者支援活動を行った。

* 孤野の教区所有地を売却する方針について、本来の寄贈者の遺族の了解を得ることにした。

III. その他の報告

* 台湾委員会から、台湾教区との宣教協働関係をあと1期(3年間)延長する件、および頼主教の来日と教区礼拝での説教奉仕について報告があった。

IV. 協議事項

* 教区の宣教協議会開催について

2012年夏に、教区の宣教協議会を開催することにした。準備チームを編成して、具体的な立案・準備に入る。

* 11月23日に開催される第106(定期)教区会の書記に、

井上進次司祭と奥村貴充聖職候補生を指名する。

9月20日(京都教区との合同常置委員会懇談会)

* 「大阪教区・京都教区の協働及び合併に関する検討委員会」の設置について、両教区の案を比較検討して、一致した案文を作成した。それぞれの教区会で提案される。

祝受洗

川口基督教会

ヤコブ・イスラエル

レア・ラケル 焔 憲和
敏子 (8月15日)

大阪聖パウロ教会

エリサベス 下野ハヤ子
(8月18日・92歳)

石橋聖トマス教会

セシリア 吉田久仁子
(8月16日・70歳)

堺聖テモテ教会

ペテロ 加納源之輔
(8月2日・91歳)

魂の平安を
祈ります

祝受按

川口基督教会

ヤコブ・イスラエル

レア・ラケル 焔 憲和
敏子 (8月15日)

聖ルシヤ教会

太田 淑子
(9月4日・108歳)

大阪聖三一教会

マリヤ 三上 敏子
(9月4日・99歳)

芦屋聖マルコ教会

アグネス 可児千代子
(9月10日・95歳)

芦屋聖マルコ教会

テレサ ヤ木 実幸
(9月18日)

教会・施設の動き

芦屋聖マルコ教会

芦屋聖マルコ教会100周年

100周年記念「クリスマスを待ち望むコンサート」

12月3日(土) 16時、当教会礼拝堂にて。出演は当教会聖歌隊、新月会(関西学院グリーOB)、KCクローバー(神戸女学院コーラスOG)、ボイスフィールド(県立芦屋高校OBOGを中心に)。入場無料、席上献金は震災救援のため。

100周年記念講演会

2012年2月25日(土) 時刻未定、ルナ・ホール。講師等、詳細は決まり次第

石橋聖トマス教会

11月13日(日) 礼拝後、東日本大震災被災者支援「チャリティー手づくりミニバザー」を開催いたします。

大阪聖愛教会

11月27日(日) 午後、東日本震災復興支援チャリティー・コンサートを開催。佐藤多紀子さんとふじの会のメンバー、中尾真紀子(当教会信徒) 他の出演です。

尼崎聖ステパノ教会

8月21日(日) 礼拝後「ステパノ祭り」が開かれた。雨天であったが約70名ほどの集いとなり、プール学院高校演劇部の朗読劇もあった。収益金は東日本大震災に当てられた。

11月17日、18日に岐阜方面へ一泊バスツアーを予定。

桃山学院大学

11月2日(水) 午後1時20分から、当大学聖救主礼拝堂にて、ジャズシンガールの文屋ハンナさんをお招きして、チャペルコンサートが開催される。また、11月11日(金) 午後3時から、2005年度文化功労者で東北大学名誉教授の岩田靖夫氏を講師としてキリスト教講演会を行う。いずれも入場無料ですので奮ってご参加ください。

公 示

日本聖公会大阪教区第106(定期)教区会を、下記のように招集します。

救主降生2011年9月28日

日本聖公会大阪教区主教

教区会議長 主教 サムエル 大西 修

記

会期 2011年11月23日(水/休)

午前9時(開会聖餐式)から午後5時まで

議場 日本聖公会大阪教区主教座聖堂(川口基督教会)

大阪市西区川口1丁目3番8号

なお、上記教区会のため、書記および会計に下記の者を指名します。

書記 司祭 パウロ 井上 進次
聖職候補生 クリストファー 奥村 貴充
会計 司祭 ヨシュア 原田 光雄
ペテロ 米虫 克次

高槻聖マリヤ教会

10月2日(日) 教会創立記念礼拝、および長寿感謝の

2011年 教会バザー開催日程一覧

教会名	日 時	収益献金目的
川口基督教会	10月30日(日) 12:30~15:00	東日本大震災救援
守口復活教会	10月30日(日) 12:00~14:00	東日本大震災救援
大阪聖三一教会	11月 3日(木・休) 11:00~14:00	対外献金(一部)
尼崎聖ステパノ教会	11月 6日(日) 12:00~15:00	東日本大震災救援
西宮聖ペテロ教会	11月 6日(日) 11:00~14:00	東日本大震災救援
大阪聖パウロ教会	11月 6日(日) 12:00~14:00	東日本大震災救援
大阪聖ヨハネ教会	11月13日(日) 11:00~14:30	東日本大震災救援

集いが開かれた。

10月30日(日)、子ども祝福式を行います。ヨハネ学園からも子どもたちが参加。

11月5日(土) 午後2時より、恒例のチャペルコンサートを行う。会場で頂いた募金は東日本大震災支援にお届けする。

教区関係教役者
逝去者記念聖餐式

◇ 11月9日 (水) 11:00 ~

於: 主教座聖堂 (川口基督教会)

説教者 サムエル 大西 修主教

- 1日 司 祭 ジェームズ・ウイリアムス (1920 英)
- 3日 司 祭 パウロ 山本 早太 (1988)
- 4日 司 祭 ヨハネ 張本 栄 (チャン・ボンヨン 1966)
- 宣教師 コンスタンス・メアリー・リチャードソン (1968 英)
- 5日 司 祭 パウロ 後藤 光敏 (1971)
- 9日 司 祭 ヨハネ 有近 康男 (1991)
- 11日 司 祭 ヨハネ 伴 君保 (1956)
- 12日 宣教師 ドーラ・レイチェル・ハワード (1947 英)
- 17日 宣教師 ガートルード・E・コックス (1906 英)
- 19日 司 祭 ヨハネ 側垣 正巳 (1997)
- 20日 司 祭 ホレイス・ジョージ・ワレン (1950 英)
- 21日 主 教 ホレイス・H・プライス (1941 英)
- 22日 司 祭 ベルナルド 小穴 藤雄 (1971)
- 23日 司 祭 北川 千代吉 (1939)
- 30日 宣教師 アミー・キャロライン・ボサンケット (1950 英)
- ?日 宣教師 アンナ・マリア・タプソン (1940 英)

◇ 12月14日 (水) 11:00 ~

於: 主教座聖堂 (川口基督教会)

説教者 ペテロ 岩城 聰司祭

- 1日 宣教師 エディス・イライザ・ソープ (1930 英)
- 2日 主 教 チャニンング・モア・ウイリアムス (1910 米)
- 4日 司 祭 テモテ 山本 登 (2009)
- 13日 司 祭 ジョン・キャリー・アンブラー (1946 米)
- 16日 司 祭 尾形 虎三 (1945)
- 17日 司 祭 アーサー・ラザフォード・モリス (1912 米)
- 宣教師 エミリー・ビショップ・ボウルトン (1926 英)
- 18日 宣教師 ジェーン・キャスパリ (1888 英)
- 22日 伝道師 清田 海一郎 (1904)
- 司 祭 近重 利澄 (1934)
- 27日 司 祭 ヘンリー・レナード・ブレビー (1942 英)
- 28日 伝道師 大塚 惟明 (1928)
- 29日 司 祭 マルコ 伊墻 八東 (1978)
- 30日 宣教師 オードリー・M・ヘンティー (1970 英)

*教役者逝去記念聖餐式は、毎月第2水曜日午前 11 時から、川口基督教会で行われます。ご関係の有無にかかわらず、どうぞ自由にご参加ください。



四辻伝道所

京都府北部教会のご案内 (8頁よりつづく)

じめ信徒の皆様と親しくさせて頂いたとき、京都聖ステパノ教会在任の頃には北小松で100人を超える合同キャンプをした懐かしい思い出があります。加悦の教会は大阪教区とながりのある方がたくさんおられ、また、高速道路が整備され大阪、神戸からもそんなに遠く感じられないところになりました。

福井県高浜原発から舞鶴まで10km、大戦後の引揚げの地、浮島丸沈没の港、海上自衛隊の町などの課題とともに海山の幸にあふれ、丹後のおいしいお酒が楽しめるところでもあります。(ちなみに私は生魚が苦手、お酒は飲めません)。もうすぐカニが解禁されるのも楽しみです。(やなぎはら よしゆき・東舞鶴聖パウロ教会牧師、加悦聖三一教会牧師、宮津聖アンデレ教会管理牧師)

お詫びと訂正

大阪教区報420号11頁に以下の間違いがありました。訂正してお詫びいたします。11頁「魂の平安を祈ります」マグダラのマリヤ 鹿角ひろ子さんの所属教会(誤) 大阪聖ガブリエル教会(正) 大阪城南キリスト教会

編集後記

実りの秋を迎えました。大阪教区報(421号)が無事

発行できましたことに感謝いたします。今回は小池俊男主教様の追悼特集のため、紙面の都合で、台風12号の被害を受けた、和歌山県新宮聖公会へ支援活動についての記事が掲載が出来ませんでした。次号(422号)で大阪教区の支援活動について紹介いたします。ご了承下さい。また、掲載希望の情報がありませんでしたら編集部(オフィス・大阪聖パウロ教会)までご連絡ください。皆様の寄稿をお待ちしています。(ジョージ)